

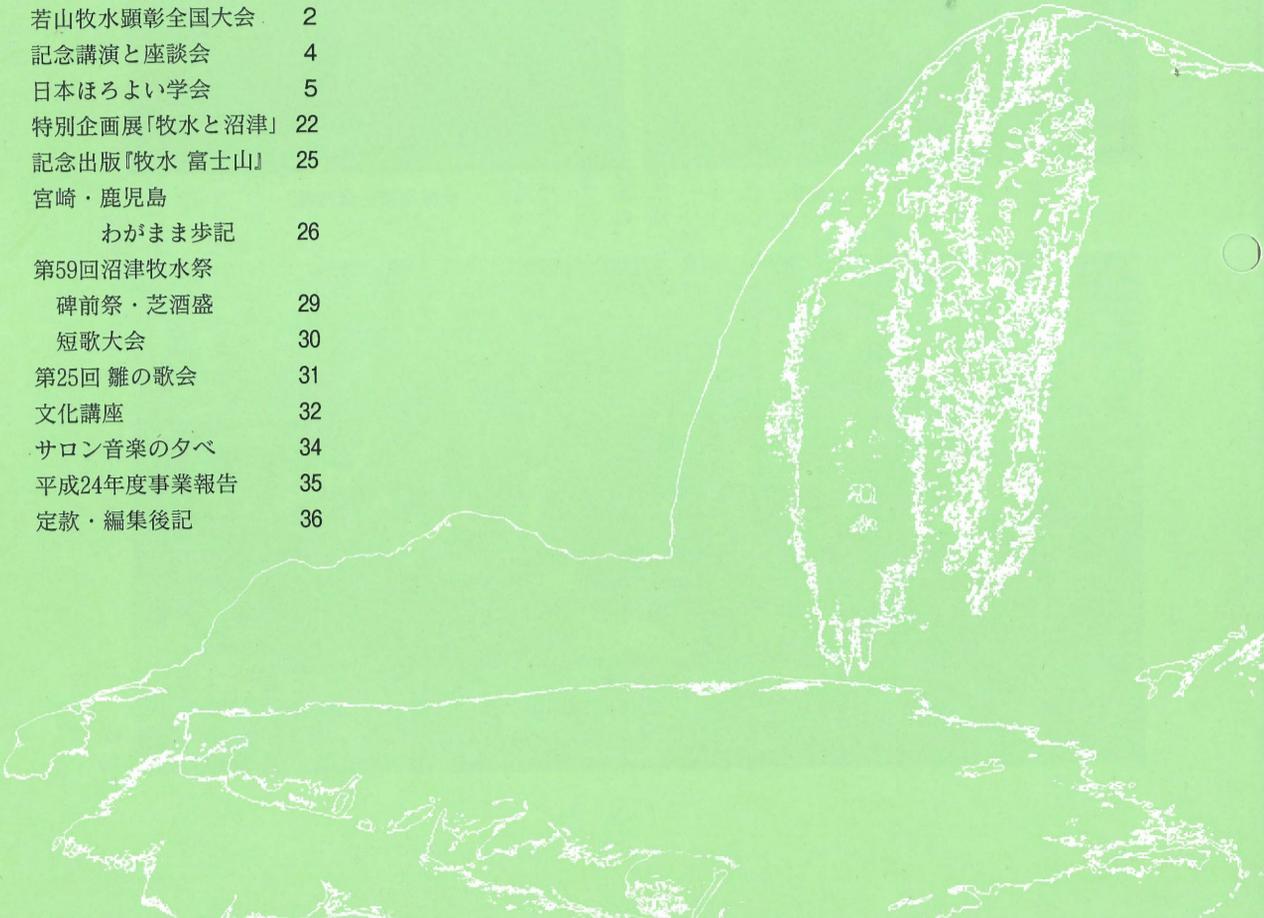
養山河

第26号

平成25年 5月15日
発行
公益社団法人沼津牧水会

目次

若山牧水顕彰全国大会	2
記念講演と座談会	4
日本ほろよい学会	5
特別企画展「牧水と沼津」	22
記念出版『牧水 富士山』	25
宮崎・鹿児島	
わがまま歩記	26
第59回沼津牧水祭	
碑前祭・芝酒盛	29
短歌大会	30
第25回 雛の歌会	31
文化講座	32
サロン音楽の夕べ	34
平成24年度事業報告	35
定款・編集後記	36



若山牧水顕彰全国大会

社団法人沼津牧水会設立二十五周年・沼津市若山牧水記念館開館二十五周年記念事業として平成二十四年十一月六日(火)に「第十回若山牧水顕彰全国大会」と「第十一回「日本ほろよい学会」を、沼津リバーサイドホテルで開催した。

二十五周年の節目としてふさわしい内容をとということで、林茂樹沼津牧水会理事長と金子安夫理事を中心として記念事業実行委員会を設置して、細かな内容やスケジュールなどの検討をしてきた。

大会当日、実行委員は揃いの法被を着て、来場者を出迎えた。

「若山牧水顕彰全国大会」は、山内達哉率いるカルテットが演奏する「永遠の旅〜若山牧水〜」で開会し、栗原裕康沼津市長の歓迎の挨拶につづき、平成二十四年四月一日に発足した「全国牧水顕彰会」会長黒木健二日向市長の代理として、北村秀秋日向市教育長の挨拶があった。



北村秀秋日向市教育長



栗原裕康沼津市長



記念講演と座談会

開会式の後、歌人の馬場あき子先生(朝日新聞歌壇選者)による「牧水と旅」と題する記念講演が行われた。

馬場先生が壇上へ上がると大きな拍手が起きた。その拍手が、参加者の講演に対する期待の大きさを物語っていた。

馬場先生は、『みなかみ紀行』のうち、大正十一年十月二十一日から二十八日までの牧水の歩いた一週間の旅を中心に、馬場先生ご自身のたどった「みなかみ」の旅の感想や様子を種々のエピソードを混ぜながら、牧水の旅と現代の旅の違いをたのしく語られた。

休憩をはさみ、伊藤一彦先生(毎日新聞歌壇選者の司会で、栗木京子先生(読売新聞歌壇選者)、小島ゆかり先生(産経新聞歌壇選者)、米川千嘉子先生(毎日新聞歌壇選者)という豪華な顔ぶれによる座談会「女流歌人、牧水を語る」が始まった。

伊藤先生の巧みなりードのもと、講師の皆さんが、「恋」「家族」「自然」「旅」などをテーマに事前に選んだ牧水の短歌八首について、選んだ理由を述べながら、牧水短歌の特徴を紹介



介し、牧水短歌への熱い想いを話された。

牧水の短歌について、様々な視点から語られる話を聴いて、牧水短歌を鑑賞する上で非常に貴重な時間であった。

なお、記念講演と座談会の詳細は、「会報」第二十六号の別冊に掲載してある。



日本ほろよい学会

「日本ほろよい学会」は、「日本酒の復権」を願って、平成十一年十月に秋田市において市制百周年事業の一環として第一回大会が開催されて以来、秋田、東京、宇都宮、沼津、延岡で開催されている。

沼津での開催は、平成十九年九月以来、二度目の開催となった。会場を三階から四階に移し、山内達哉率いるカルテットによるミニコンサートで開会した。

「日本ほろよい学会」会長である佐佐木幸綱先生（朝日新聞歌壇選者）の「水と酒」をテーマとする記念講演が行われた。牧水の「酒の歌」三百六十余首の中から十八首、次いで江戸時代以降の歌人の「酒の歌」及び馬場あき子、伊藤一彦両先生と佐佐木先生ご自身の「酒の歌」について語られた。



佐佐木幸綱先生の「酒の歌」をテーマとする講演の後、酒宴となった。牧水にゆかりのある秋田、延岡などの銘酒のほか、東日本大震災復興支援としての宮城、福島も銘酒も取り揃えられた。

石川錬治郎「日本ほろよい学会」副会長の発声で、延岡市千徳酒造の純米吟醸「夢の中まで」で乾杯。参加者三百二十一人は、沼津の名物を酒の肴（針子の焙り、桜海老釜上げ、鰹のたたき、煮物、太刀魚の焼物、酢の物、秋刀魚の棒寿司、鰯のつまみ、心太の黒蜜かけ）に、用意された銘酒を思う存分酌み交わしながら賑やかに交流が深められた。全国の牧水を顕彰する団体それぞれが舞台上上がっての活動報告の後、ソプラノ歌手高田紹代さんによる伊藤康英作曲「牧水の酒の歌」四首の披露があった

二日目は、「全国牧水顕彰会代表者会議」と「牧水歌碑めぐりバスツアー」が行なわれた。「全国牧水顕彰会」が発足しての第一回代表者会議が牧水記念館会議室で開催され、「牧水歌碑めぐりバスツアー」は、乗運寺―千本浜公園―牧水記念館―香貫山―柿田川公園―三島大社―三島駅という行程で実施された。参加者は四十名。沼津にもう一泊される日向と延岡の一行は、千本浜海岸に戻り、海に沈む夕陽を見て、大いに感動されたようであった。

その夜、日向、延岡の一行と沼津牧水会の有志で晩餐会を催し、再び賑やかに交流が深められた。





秋田市からの参加者



日向市からの参加者



延岡市からの参加者



所沢市からの参加者



東京からの参加者



秩父市からの参加者



新見市哲西町からの参加者



那智勝浦町からの参加者



愛知からの参加者



伊豆市土肥からの参加者























「酒の歌」を熱唱する高田紹代さん



田原大三東京牧水会会長



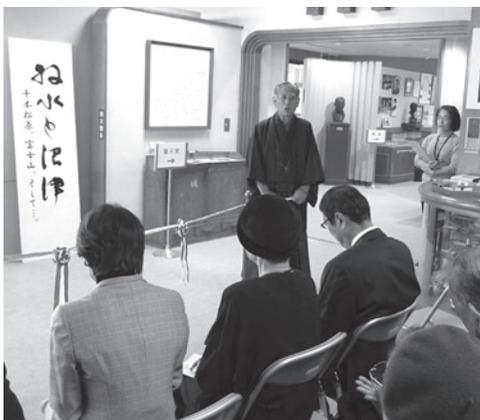
特別企画展 牧水と沼津

／ 千本松原、富士山、そして……。

社団法人沼津牧水会設立二十五周年・沼津市若山牧水記念館開館二十五周年を記念して、「牧水と沼津」千本松原、富士山、そして……をテーマに、「特別企画展」が平成二十四年十一月三日から十二月二十四日まで開催された。

十一月三日(土)午前十時からオープニングセレモニーが催され、林茂樹沼津牧水会理事長と栗原裕康沼津市長の挨拶につき、栗原市長、榎本篁子沼津市若山牧水記念館館長、林理事長によるテープカットがあった。オープニングセレモニーへの参加者五十余人。

展示内容は、牧水が沼津に移り住んだ大正九年から昭和三年九月十七日に亡くなるまでの間に焦点を当て、牧水が愛してやまなかつた沼津千本松原の当時の風情を「箱庭」で再現し、「時事新報」に寄稿された「千本松原の松伐採反対」の檄文を掲げ、檄文に登場する樹木や鳥をパネルで紹介した。生きた樹木や下草を使った「箱庭」は入場者を驚かせていた。



新たに発見された牧水直筆の半切

かるたとりうめばすなはちとりいでて
吹くはもにかも春の夜の曲

を所有者から借用して会場正面に展示し、千本松原や富士山を詠んだ牧水直筆の半切、色紙、短冊のほか、沼津周辺から望む富士山の写真二十四点を展示して入場者の目をたのしませた。また、家族と一緒に撮った写真や旅先から家族に宛てた手紙などを展示した。

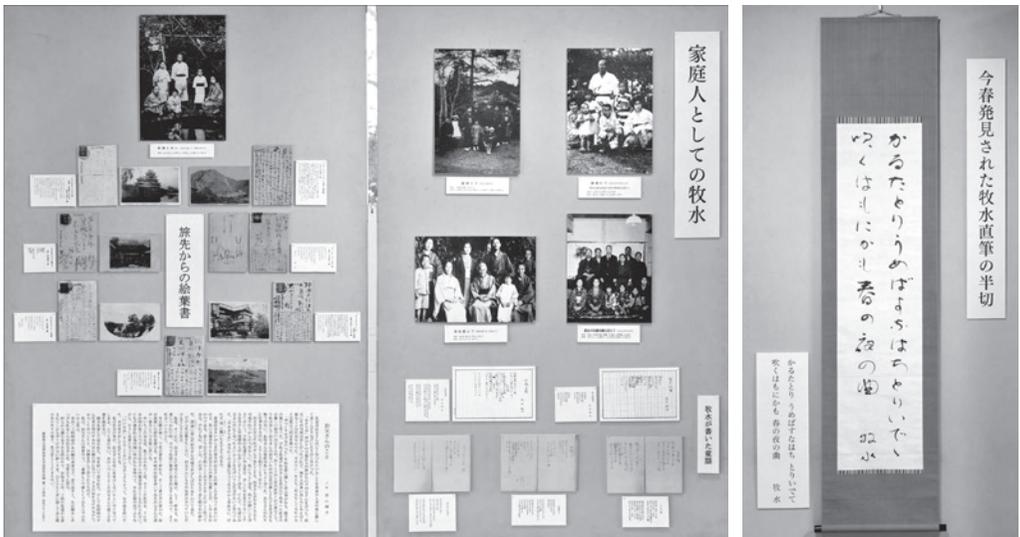
セレモニーの後、榎本篁子館長による「家庭人としての牧水」新発見の牧水短歌の書かれた半切についてと題する文化講座が開催された。新発見の「半切」を取り上げつつ、家族を愛する家庭人としての牧水について語られた。参加者は四十九名。

十一月二十四日(土)午後一時三十分からは、大下一真先生(鎌倉瑞泉寺住職、第十六回若山牧水賞受賞者)による「若山牧水と伊豆の歌」と題する文化講座が開催された。参加者は五十八名。

なお、「特別企画展」の展示のすべてを写真集として収めた「図録」が制作され、好評である。(沼津市若山牧水記念館売店にて販売中、頒価二百円)。

特別企画展への参加者は一千人余であった。





宮崎・鹿児島「わがまま歩記」原悦子

あるき

のため、沼津を発つての旅に向う。

羽田から空路宮崎へ…。ちよつと待て…。飛行機嫌いの林理事長がこの旅を承知したのが不思議でおかしく、たのしい旅を期待！

羽田を飛び発つて、美しい雲海を眺めながら宮崎へ。機内では、少々聞こし召していた理事長も、飛行機嫌いはどこへやら。すこぶるご機嫌で特別なエピソードもなく無事到着。

空港内のレストラン「夢かぐら」にて昼食。酒豪が大半のメンバーも、式典を控えていることもあつてか控え目だった。「おむすび」が食べ切れずにパックに詰めてもらった。が、そこは戦中派が多い面々、「もつたいない」の心があると思うものの、後で本当に片付くのかといささか気になりながら会場のホテルに向う。

今回の受賞者は大口玲子氏。第四歌集『トリサンナイト』による受賞である。授賞式の前半は、「牧水 富士山」の販売を手伝つて聞きそびれたが、選考委員の皆さんが口々に受賞者の大口氏に対し、これからの活躍を大いに期待するとの賛辞を述べられた。

記念講演は、選考委員である佐佐木幸綱先生による「富士山と牧水」。牧水の詠んだ富士山の短歌や日記の抜粋などを引用しながら、牧水がいかに富士山を愛したかを参加者に話された。

静岡県が

刊行した『富士山百人一首』に、牧水が沼津で詠んだ歌「香貫山いただきに来て吾子とあそび久しく居れば富士晴れにけり」の一首が入っていること紹介もあり、沼津牧水会のことも多く話され、少々鼻が高かった。



うす曇りながら、まずまずの天候の二月五日(火)、前年と同じ顔ぶれの面々(林茂樹、浅井治、長澤靖夫、三宅芳則、原悦子、大島葉子)が、宮崎市の宮崎観光ホテルで開催される「第十七回 若山牧水賞授賞式」への参加



祝賀会も華やかに行われ、場所を移しての二次会も和気藹々でたのしい宴だった。新たに一人宮崎の友人が出来たこともうれしい限りであった。三次会にまでおよび、浅井治先生のご友人松田総一郎さんに大変お世話になってしまった。浅井先生！皆の分までしっかりお礼を申し上げてくださいネ。



二日目は、ドライブカーをお願いした三宅芳則氏のスムーズな運転で、椰子の並木を眺めながら霧島から鹿児島へ。あいにく雲が多く桜島をハッキリ見られず少々残念！鹿児島北ICを通って仙巖園へ。この庭園は薩摩藩主島津光久によって築庭されたとのことで、整備も行き届いて、ここからの景色は何度見てもすばらしいと思う。昼食前に名物の両棒餅を食す。「両棒」は、侍の二本差しから取った名とのことだ。昼食は「花ん華」の奄美鶏飯、

美味しかったからと長澤靖夫氏の推薦だったが、自分のわがままから好きな物を頼んでしまつて迷惑をかけてごめんなさい。でも、かけ汁の味見をさせてもらい、出汁の効いたよい味だった。理事長と浅井氏も、わがままを言つて、美味しいお酒をたのしんだようでした。お二人は話し上手で、うらやましい。その間、私たちは大島紬の里の見学に出かけた。糸を細ぐことから染めと模様を作る織糸を拾う作業の細かいこと。とても自分には出来ない根気のいる作業だと感心する。紬のお値段の高いのも頷ける。売店で大島嬢はおしゃれなマフラーを、私は気に入った色の紬の帽子を買つてごきげんで宿に向う。

指宿温泉「秀水園」に到着後、砂むし会館「砂楽」にて、砂風呂を体験する。ここでもサウナが大の苦手の私は熱さに我慢出来ず、五分と、もたずに逃げ出しました。理事長も熱い熱いと早々に抜け出たようだ。他の方々は熱さに強いのか、十五分以上は埋まっていたようだ。ひと汗かいた後、身内だけの宴になる。食前酒、焼物、替鉢、留碗、香の物、ご飯、デザートと盛り沢山の献立で、戦中派の私としては残してしまうのは本当に心苦しかったが、どうにも食べ切れず、ごめんなさいと許してもらおう。美味しい物をこ存じ



の長澤氏はさすが健康家^{けんたんか}。いつも余り召し上っているのをみたことがない理事長も、しっかり召し上がったようだ。女人二人は十二分に堪能し、もうダメと、和の風情漂^{たなほ}うシツクな雰囲気^{ふんぎ}の部屋に帰ってバツタリ。三日目も、三宅氏の運転で、八時半に宿を発つて池田湖へ。運が良ければイッシーという生き物が顔を出すとか。湖畔にあったイッシーの像は恐竜を思わせるが、あいにく顔を見せてくれなかった。藍色の水面と開聞岳^{かいもんがけ}の勇姿は絵に描きたい風景だった。旅の駅にいた大うなぎは、少々不気味^{ふきみ}。食べたくない。

次は知覧特攻平和会館へ。貴重な資料を見て、やりきれない思いだ。何とバカなことをと、戦争のむなしさを改めて思い知る。今また、自衛隊を国防軍にとか、憲法改正等と言いつ張るヤカラがいるが、今の平和憲法は守らねばと心底思う。ああもつたいない。あたら若い命を散らしてしまうなんて。腹が立つ。

かえらじと思う心のひとすじに玉と砕けて御国守らん

こんな短歌を残して飛び立っていった若者をどう思うのだろうか。私が何と叫んだところでゴマメの歯ぎしりか。今の平和に感謝しつつ、「無双蔵」「薩摩庵」を目指す。

さつま揚、かるかんの製造過程と焼酎の製造過程を見学し、おみやげの面白い物を楽しむ。少し曇って来て風も冷たくなって来たので、次の目的の昼食場所「さつま路」へ。献立のさつま揚げ膳に舌鼓。昨日のルートに戻って鹿児島北ICを経て溝辺鹿児島空港ICを過ぎて車を返却。三宅さん、お疲れさまでした。

鹿児島空港にて待つこと小一時間、皆さままだおみやげが買いい足りない様子にてお店を廻っていた。

夕暮れ迫る頃、帰路に向けて飛び立った。夕焼けを浴びた富士山が見えた時は、何となくほっとしたような、この旅を終わりたい



いような、いささかの寂しさを感じてしまった。間もなく宝石箱をひっくり返したような都会の灯を眼下にしながら羽田着。品川駅から歩いて今回最後の宴の場「稲田屋」へ。この店は、鳥取の造り酒屋がやっているとのこと、いろいろなお酒を楽しみながら無事に旅が出来たことなどを語り、楽しい宴であった。ここから一路沼津への帰途につく。今回の旅は、いい講演を聞き、勉強にもなったし、楽しくお酒も飲んで、美味しいものも食べ、友人も出来、実に実りの多い旅でした。わがままを言って申し訳なかったが、メンバーの皆さま、ありがとうございました。

第59回沼津牧水祭

碑前祭・芝酒盛

十月二十一日(日)午前十一時



さわやかな風が吹く秋晴れの下「沼津牧水祭・碑前祭」が開催され、林茂樹理事長の挨拶で開会となった。

平成二十四年は、社団法人沼津牧水会設立二十五周年・沼津市若山牧水記念館開館二十五周年の記念の年であり、林理事長から十一月三日(土)から始まる「特別企画展」、十一月六日(火)にリバーサイドホテルで行われる「若山牧水顕彰全国大会」「日本ほろよい学会」の案内があった。

来賓を代表して、栗原裕康沼津市長、工藤達朗沼津市教育長の祝辞があり、急用のため欠席された榎本篁子記念館館長に代わって、林理事長が「幾山河の歌碑」に献酒をした。

つづいて、牧水高弟の故大悟法利雄氏の朗詠による牧水短歌と長詩をバックに、花柳寿宗師の華麗な日本舞踊が披露されたのち、中学生短歌コンクールの表彰式が行なわれた。

沼津市内十五校から前年度を上回る二三四二首もの応募があった。その中から、特選十首に選ばれた中学生の名前が呼ばれ、次々に碑前に並んだ。作品を読み上げると、大きな拍手が起こり、表彰状を受け取る中学生のはにかんだ顔が印象的であった。

「牧水のうた」を歌う会の牧水短歌四首の合唱で、碑前祭の式典は終了となった。

青木敝堂氏の澄んだ重厚感のある尺八の音色が会場内に響き渡る中、後半の「芝酒盛」の準備が進められた。

準備も整い、田原大三東京牧水会会長、工藤教育長、城内務沼津市市議会議長、林理事長による鏡割りの後、城内市議会議長の乾杯の音頭で芝酒盛が始まった。会場は一転してお祭りムードになり、ご遠方からご参加いただいた来賓の方々や参加者は、芝酒盛オリジナル弁当を酒の肴に、本会が用意した日本酒を酌み交わしながら、ほろ酔い気分をたのしんだ。

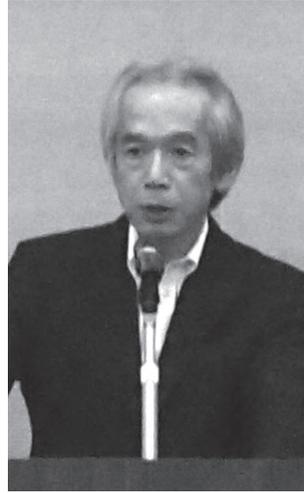
岳心流沼津愛吟国風会による詩吟、ぬまづ観光ボランティアアガイドの合唱、沼津ハーモニカクラブによる合奏とつづき、みんなで歌おう「日本の歌・牧水の歌」では、懐かしい歌を合唱し、渡辺総生氏が自ら作曲した「牧水の歌」をギターの弾き語りで披露した。

沼津牧水会会員でソプラノ歌手の高田紹代さんが、牧水の「酒の歌」四首(伊藤康英作曲)を熱唱し、参加者全員が、復興支援ソング「花は咲く」を大きな声で一緒に歌った。

「裾野五竜太鼓保存会」と「ようそら」の力強く迫力のある太鼓で会場は大いに盛り上がり、たのしく充実した沼津牧水祭碑前祭・芝酒盛であった。(本会会員 栗田昭子)

第59回沼津牧水祭 短歌大会

十月七日(日)
午前十時三十分
沼津市立図書館
視聴覚ホール



平成二十四年の沼津牧水祭短歌大会は、講師に「りとむ」の三枝昂之先生をお招きして行われた。作品数百五十七首、当日の参加者は百六人。午前中は三枝先生の講話、午後は参加者の作品を中心にご批評をいただき、充実した一日を送った。

講話は、「短歌の魅力を考える」という切り口で、藤原俊成の「春の花をたづね、秋の紅葉を見ても、歌といふものなからましかば、色をも香をも知る人もなく、なにをか本の心ともしべき」を基調に、短歌の諸相について話された。短歌は感受性を育てるのをまとめとして、短歌の持つ力など、短歌作品を挙げながらのお話は、解り易く説得力があった。

特に印象に残ったのは、「短歌の記録性というか、短歌は日記代わりの詩型である」と話されたことだった。長い間、日記短歌になるなど言い聞かせるように作って来た私にとつて、目から鱗が落ちたような思いであった。

東日本大震災の作品を例として、機会詩としての短歌の有用性、記録性、事象だけでなく、その折々の思い、感性までも記録できる媒体としての短歌の魅力を改めて教えられた。午後の歌評は、丹念に作品を読みとつて、その是非を素材から表現まで懇切に語られた。

講師選の牧水賞ほか七首と互選賞は以下のとおりである。

牧水賞一席

沼津市 青木初音

人力車にゆられ分校の坂を来し校医の触れる手はぬくかりき

牧水賞二席

浜松市 幸田功夫

幼き日胸躍らせた入道雲ホームに通うバスより眺む

牧水賞三席

足利市 須永廣子

ホタルつて声をころして泣くときに青くひかるの息子は似てたの

選者賞

『狭き門』のページに恋文匿しおきイン
パール戦線兄は征きたり

茅ヶ崎市 市川淳代

朝餉炊く棚田のお米ふつふつと厨に佐賀の陽のほびとどく

沼津市 土屋八代枝

赤彦の庭に見おろす湖は夏の光を鋭くかえす

長泉町 伊藤 純

飼主の少女の留守を文鳥が米とぐ我の肩にとまれり

沼津市 堀内裕子

父は櫻、母はダリアをうつつ世の忌の花としてわれに残せり

静岡市 杉山春代

いつか読むいつの日か着ると仕舞いおきいつまで生きるつもりか吾は

伊豆市 鍵山たみ

軒先を掠めるやうにつばめとぶ子つばめの待つお菓子屋の軒

富士市 福西美枝子

互選賞

市長賞

沼津市 高橋公子

ふくよかな母でありしにわが抱く壺に小さくをさまりにけり

市議会議長賞

茅ヶ崎市 市川淳代

『狭き門』のページに恋文匿しおきイン
パール戦線兄は征きたり

教育長賞

流山市 森 弘子

みちのくに倒れしままの石地藏コスモスの咲く野辺にほほゑむ

(本会理事 須永秀生)

第25回
雛の歌会

三月三日(日)
午後一時三十分
沼津市若山牧水
記念館ラウンジ



春風の吹く松籟しょうらいの中「雛の歌会」は講師に馬場あき子先生をお迎えして開かれました。

出詠歌百十六首。百六名の参加で、記念館のラウンジはたくさんの人々の熱気で満たされました。

着物姿の凛々りりしい馬場先生は、お付きの森川多佳子さんの読みあげる出詠歌について、「読者にどう伝わるか」という視点から、表現の重要さ、むずかしさを鋭く突き、時に笑いを誘いながら話される内容に、私たちはすっかり魅了され、時間の経つのも忘れるほどでした。批評の幾つかを紹介します。

小さき幸ひろいて作る冬の歌温き陽射し
の大きな手の影 後藤久枝

「小さき幸」と遠慮して言うのはいじましく
ちぢこまる。「大きな手の影」は象徴し過ぎ、
象徴し過ぎは損。

孫ひなに雛ひな与へて逝いきにし母の許老いて父恋
ふ七段飾り 飯田ふみ代

一首の作品に父、母、孫など肉親の登場人物が多すぎると複雑になり、関係が分かりにくくなる。祖母の眼からの生活の「こまを切り取った表現を。」

道のべの梅かほりたる里に入り いつしか
か時は過ぎにけるかも 飯塚 忍

「いつしか時は過ぎにけるかも」という表現は現代には合わない。齋藤茂吉ではないのだから。「道のべの」は「道のべに」、「梅かほり」は「梅のかほれる」、結句は「時を忘れて」にしたい。

先生の選ばれた作品十首

梨の香のせしこと今も不思議なり早春の
ベンチきみの唇 春原照子

欲しくないものをいただきオメデトウと
いう新年は百二歳なり 渡邊つぎ
ガリレイも登りし階段磨り減りてピサの
斜塔の歴史は重し 小玉正朋

介護の日日たまには野良の空気吸い青
大根すぼすぼと抜く 勝亦はる江

八十歳には八十歳の恋 ほのかなるとき
めきに 侘助の花盛るかな 須永秀生
耳までもすっぽりおおうこの帽子真冬の
日々にも被りき 川辺典代

明日オベの夫を病院に置いて来てガラン
と音のするような部屋 近藤ゆみ子

象牙彫り丈一寸の母のひな母より多く春
をかさねる 芦澤由子

ミニ葉牡丹がプランターにひしめきぬ女
性専用車両には乗らず 望月チカ

五病息災と言ひつつ夫のカレンダーハモ
ニカ吹く日が①②③と並ぶ 市川淳代

馬場先生は言葉のこなし方をどうしたらいいかに対しては、たくさん作ること、一ヶ月に三十首どんどん作る、あまりこなれ過ぎても決まらなくなる。長く詠っている人は、大胆に自分の歌を壊すことが大切。質問者の「古典の言葉はどう使うか」には、答えて、「和歌などの古典の言葉はどう使うかは、格言を使うより難しい。ひらがな、助詞、助動詞の活用が大切。」を多用するとうるさくなるなどなど、分りやすいアドバイスに納得。出詠歌と参加者の多さに先生も満足されたことと思いました。

(本会会員 一杉智子)

文 化 講 座

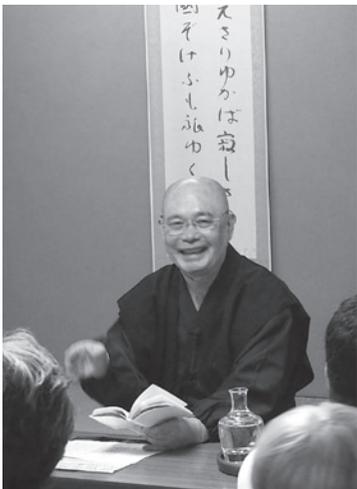
家庭人としての牧水 ～ 新発見の牧水短歌の書かれた半切について ～

日 時 平成24年11月3日(土) 午前10時30分～12時
講 師 榎本篁子沼津市若山牧水記念館館長
会 場 沼津市若山牧水記念館会議室



若山牧水と伊豆の歌

日 時 平成24年11月24日(土) 午後1時30分～3時
講 師 大 下 一 真 氏 (歌人、第16回若山牧水賞受賞者)
会 場 沼津市若山牧水記念館会議室



文 化 講 座

初心者のための短歌講座(午前)

牧水記念館短歌会(午後)

日時 平成24年4月～平成25年3月 毎月第2土曜日 午前・午後(全11回)

講師 須永秀生氏



牧水記念館俳句会

日時 平成24年4月～平成25年3月 隔月第4日曜日 午後(全5回)

講師 榎本好宏氏



書 道 講 座

日時 平成24年4月～平成25年3月 毎月第3火曜日 午後(全10回)

講師 成田真洞氏



サロン音楽の夕べ

沼津市若山牧水記念館ラウンジ

器楽アンサンブルの楽しみ

日 時：平成24年6月9日(土)
午後6時30分
出 演：トリオ オルフェウス
渡邊浩代(ピアノ)
山本陽子(クラリネット)
川島祐子(フルート)
来場者：40人



古楽コンサートシリーズ28 神戸愉樹美ヴィオラ・ダ・ガンバ合奏団 & チェンバロ演奏会

日 時：平成24年9月29日(土)
午後6時45分
出 演：神戸愉樹美
ヴィオラ・ダ・ガンバ合奏団
神戸愉樹美 小澤絵里子
野口真紀 橋爪香織
杉山佳代 (チェンバロ)
来場者：90人

音楽で描く風景画 「千の音色でつなぐ絆 in NUMAZU」

日 時：平成25年2月16日(土)
午後6時30分
出 演：山内達哉 (ヴァイオリン)
小林真人 (ピアノ)
井尻兼人 (チェロ)
大河内淳矢 (尺八)
来場者：86人



平成24年度事業報告

総会 (第26回総会) 平成24年5月10日(木) 午後6時～7時10分
理事会 第1回 (通算134回) 平成24年4月10日(火) 午後6時～7時30分
第2回 (通算135回) 平成24年5月10日(木) 午後7時10分～7時20分
第3回 (通算136回) 平成24年12月11日(火) 午後7時～7時20分
第4回 (通算137回) 平成25年3月6日(火) 午後6時～6時30分

会報 第25号 平成24年5月15日発行
館報 第49号 平成24年9月15日発行
第50号 平成25年3月15日発行
『牧水 富士山』 平成24年11月1日刊行

1 調査研究事業

- 第13回「百草園牧水歌碑祭」へ参加 (主催:東京牧水会)
日時:平成24年8月26日(日) 正午
会場:東京都日野市百草園 牧水歌碑前
参加者:磯崎剛、野村章、原悦子、三宅芳則、大島葉子
- 第62回日向市の「牧水祭」へ祝電 (主催:宮崎県日向市)
日時:平成24年9月17日(月) 午前10時
会場:日向市東郷町坪谷 若山牧水生家裏牧水歌碑前及び牧水公園ふるさとの家
- 第56回 暮坂峠「牧水まつり」へ祝電 (主催:牧水詩碑保存会)
日時:平成24年10月20日(土)
会場:群馬県吾妻郡中之条町 暮坂峠
- 第17回「若山牧水賞授賞式」へ参加 (主催:宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎日日新聞社、延岡市、日向市)
日時:平成25年2月5日(火)～2月7日(木)
会場:宮崎市 宮崎観光ホテル
(受賞記念講演会:日向市中央公民館)
受賞者:大口玲子氏「トリサンナイト」
参加者:林茂樹、浅井治、長澤靖夫、原悦子、三宅芳則、大島葉子

2 第59回沼津牧水祭の運営

- 短歌大会
日時:平成24年10月7日(日) 午前10時30分～午後4時15分
会場:沼津市立図書館 視聴覚ホール
講師:三枝昂之氏
(第7回若山牧水賞受賞者、歌誌「りとむ」主宰)
応募短歌:157首
参加者:106人
- 碑前祭・芝酒盛
日時:平成24年10月21日(日) 午前11時～午後2時45分
会場:千本浜公園 牧水歌碑前
参加者:496人

3 沼津市若山牧水記念館開館25周年記念事業の開催

- 特別企画展「牧水と沼津」
日時:平成24年11月3日(土)～12月24日(月)
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
入場者:1,003人
- 若山牧水顕彰全国大会 沼津大会
日時:平成24年11月6日(火) 午後1時～4時30分
場所:沼津リバーサイドホテル3階
内容:講演「牧水と旅」馬場あき子氏
座談会「女流歌人、牧水を語る」
栗木京子氏、小島ゆかり氏、米川千嘉子氏
(司会)伊藤一彦氏
参加者:321人
- 日本ほろよい学会
日時:平成24年11月6日(火) 午後5時～9時
場所:沼津リバーサイドホテル4階
内容:演奏「永遠の旅～若山牧水」
山内達哉(ヴァイオリン)、大河内淳矢(尺八)、
井尻兼人(チェロ)、小堺香(ピアノ)
講演「牧水と酒」佐佐木幸綱氏
参加者:321人

4 文学講演会及び文学講座等の開催

- 文化講座「家庭人としての牧水
～新発見の牧水短歌の書かれた半切について～」
日時:平成24年11月3日(土) 午前10時30分～12時
場所:沼津市若山牧水記念館会議室
講師:榎本壺子沼津市若山牧水記念館館長
参加者:49人
- 文化講座「若山牧水と伊豆の歌」
日時:平成24年11月24日(土) 午後1時30分～3時
場所:沼津市若山牧水記念館会議室
講師:大下一真氏(第16回若山牧水賞受賞者)
参加者:58人

- 第25回「雛の歌会」
日時:平成25年3月3日(日) 午後1時30分～4時
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
講師:馬場あき子氏(若山牧水賞選考委員、
「かりん」主宰)
応募短歌:116首
参加者:106人
- 初心者のための短歌講座
日時:平成24年4月～平成25年3月
毎月第2土曜日 午前10時～12時
会場:沼津市若山牧水記念館会議室
講師:須永秀生氏
参加者:11回開催 延べ225人
- 牧水記念館短歌会
日時:平成24年4月～平成25年3月
毎月第2土曜日 午後1時30分～3時30分
会場:沼津市若山牧水記念館会議室
講師:須永秀生氏
参加者:11回開催 延べ135人
- 牧水記念館俳句会
日時:平成24年4月～平成25年3月
隔月第4日曜日 午後2時～4時30分
会場:沼津市若山牧水記念館会議室
講師:榎本好宏氏
参加者:5回開催 延べ86人
- 書道講座
日時:平成24年4月～平成25年3月
毎月第3火曜日 午後1時～3時
会場:沼津市若山牧水記念館会議室
講師:成田真洞氏
参加者:10回開催 延べ85人
- 第23回「中学生短歌コンクール」募集・表彰
募集期間:平成24年5月16日(水)～9月10日(月)
応募短歌:2,342首(17校,2,342人)
入選短歌:52首
選者:青木朝子、須永秀生、杉山芳春、曾根耕一、
星谷亜紀
表彰:平成24年10月21日(日) 沼津牧水祭碑前祭にて
- 音楽イベント
「器楽アンサンブルの楽しみ」
日時:平成24年6月9日(日) 午後6時30分
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
出演:渡邊浩代(ピアノ)、山本陽子(クラリネット)、
川島祐子(フルート)
来場者:40人
古楽コンサートシリーズ28
「神戸榎樹美ヴィオラ・ダ・ガンバ合奏団&チェンバロ演奏会」
日時:平成24年9月29日(日) 午後6時45分
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
出演:神戸榎樹美、小澤絵里子、野口真紀、橋爪香織
(ヴィオラ・ダ・ガンバ)
杉山佳代(チェンバロ)
来場者:90人
音楽で描く風景画「千の音色でつなぐ絆 in NUMAZU」
日時:平成25年2月16日(土) 午後6時30分
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
出演:山内達哉(ヴァイオリン)、小林真人(ピアノ)、
井尻兼人(チェロ)、大河内淳矢(尺八)
来場者:86人
- 企画展示
①「中学生短歌コンクール」入賞作品展示
(成田真洞氏揮毫による特選歌10首、入選歌40首の短冊)
期 日:平成24年10月21日(日)～10月28日(日)
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
入場者:145人
②平成24年度書道講座受講者作品展示
期 日:平成25年3月20日(水)～3月31日(日)
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
入場者:252人

公益社団法人沼津牧水会定款（抜粋）

- 第一条 この法人は、公益社団法人沼津牧水会と称する。
- 第二条 この法人は、主たる事務所を静岡県沼津市千本郷林一九〇七番地の二に置く。
- 第三条 この法人は、歌人若山牧水を顕彰し、文学的業績の研究を深め、短詩型文学の普及を図り、もつて、教育文化の振興に寄与することを目的とする。
- 第四条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- (1) 歌人若山牧水に関する調査研究
- (2) 沼津牧水祭（短歌大会及び碑前祭）の運営
- (3) 文学講演会、文学講座等の開催
- (4) 沼津市若山牧水記念館の管理運営の受託
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 第五条 この法人に次の会員を置く。
- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は団体
- (2) 賛助会員 この法人の事業を援助する個人又は団体
- (3) 名誉会員 この法人に特に功労のあつた者で、会員総会の決議をもつて推薦されたもの
- 第六条 前項の会員をもつて、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。
- この法人の会員にならうとするものは、入会申込書を理事長に提出し、理事会の承認を受けなければならない。ただし、名誉会員に推薦された者は、入会の手続を要せず、本人の承諾をもつて会員となるものとする。
- この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員になつた時及び毎年、会員は、会員総会において別に定める額を支払う義務を負う。
- 第七条
- 公益社団法人沼津牧水会入会金及び会費規程**
- 第一条 この規程は、公益社団法人沼津牧水会定款第七条に基づき、入会金及び会費について定めることを目的とする。
- 第二条 定款第七条第一項に規定する入会金は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 一〇、〇〇〇円
- (2) 賛助会員 三〇、〇〇〇円以上
- 第三条 定款第七条第一項に規定する会費は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 五、〇〇〇円（年額）
- (2) 賛助会員 一〇、〇〇〇円以上（年額）

（理事長）	林 茂樹
（副理事長）	杉山 光男
（理事）	浅井 治 須永 英男
	保坂 輝夫 田中 和男
	八十濱俊一 杉山 芳春 長澤 靖夫 青木 朝子 四方 一弥
（監事）	杉山 重義 鈴木 弘行 近藤美智代 納谷 瑞穂
（事務局）	大島 葉子 伊藤早智子

編集後記

東日本大震災から二年が経ちました。被災地の復興が、放射能汚染の影響もあつて遅々として進みません。被災した方たちのことを思うと心が痛みます。一日も早い復興を心から希つております。

昨年は、社団法人沼津牧水会設立二十五周年・沼津市若山牧水記念館開館二十五周年の記念の年でした。

記念事業として、特別企画展「牧水と沼津」・「若山牧水顕彰全国大会」・「日本ほろよい学会」を開催し、全国各地から多くの方々にご参加いただき、大好評でした。

それぞれの事業の模様を紙面で振り返ってみました。なお、「若山牧水顕彰全国大会」と「日本ほろよい学会」の「講演録」は、別冊でお届けいたします。

開館記念日の十一月一日に「牧水 富士山」を発刊し、牧水の富士山への想いを皆さまにお伝えすることができたと自負しております。これに併せて、「牧水 富士山」の葉も発行いたしました。広報していただけたらと存じます。

本年二月に開催された「若山牧水賞授賞式」に、本会から六名が参加いたしました。参加報告を原悦子会員にお寄せいただきました。

「沼津牧水祭・短歌大会」の講師に三枝昂之先生、「雛の歌会」の講師に馬場あき子先生をお迎えいたしました。両会ともに充実した歌会となりました。講師としてお越しいただいた両先生に厚く御礼申し上げます。

恒例の「沼津牧水祭・碑前祭」も好天に恵まれ、にぎやかに開催することができました。

文化講座としては、「特別企画展」の開催中に、榎本篁子館長の「家庭人としての牧水」、大下一真先生の「若山牧水と伊豆の歌」の講演を開催いたしました。「短歌」「俳句」「書道」の各講座及び「サロンコンサート」も好評でした。

本年度も、諸々の事業を計画しております。変わらぬご支援をお願い申し上げます。